

■ 掲示板

■ 兵庫県立大学大学院物質理学研究科教員公募

募集人数：助教または講師 1名（なお、本学では本年4月から助教については「准教授」として採用する予定です。）

所属：大学院物質理学研究科 物質科学専攻 物質機能解析学部門 量子物性学分野

（教授：小林寿夫（本年4月1日就任予定）、助手：小泉昭久在籍）

専門分野：広い意味での磁性を中心とした物性実験。複合極限環境下での物性研究や放射光を用いた物性研究に意欲のある方。経験は問わない。

応募資格：博士の学位を有し、学部教育および大学院での教育研究を担当できる方。

着任時期：平成19年10月1日（予定）

提出書類：

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績リスト（査読誌、総説、著書、プロシーディング、その他に分類すること。）
- (3) 主要論文別刷りまたはコピー（5編以内）
- (4) これまでの研究の概要と今後の研究と教育への抱負（各2000字程度）
- (5) 推薦書
（自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先）

応募締切：平成19年5月10日（木）必着

書類送付先：

〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目2番1号

兵庫県立大学大学院物質理学研究科長 小原孝夫

事務部総務課気付 TEL：0791-58-0101

封筒に「量子物性学分野助教応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと。

問合せ先：

〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目2番1号

兵庫県立大学大学院物質理学研究科 小林寿夫

TEL：0791-58-0145（直通）

E-mail：kobayash@sci.u-hyogo.ac.jp

なお、詳細は当研究科のホームページ

<http://www.sci.u-hyogo.ac.jp> 参照。

■ 産業技術総合研究所特別研究員公募

公募人員：1名（特別研究員）

所属：計測標準研究部門 量子放射科 放射線標準研究室

研究内容：

放射光軟X線を使った原子・分子・X線強度計測の研究およびX線発生装置を使った医療用マンモグラフィ線量計測の研究を行っていただきます。

応募資格：学位取得後7年以内

着任時期：2007年9月1日（相談可）

任期：2009年3月31日まで更新可能

提出書類：

- 履歴書（写真貼付）
- これまでの研究概要（形式自由）
- 業績リスト
- 博士号取得を証明できる書類

公募締切：2007年7月27日（金）必着

書類提出先および問合せ先：

〒305-8568 茨城県つくば市梅園1-1-1 中央第2

産業技術総合研究所 計測標準研究部門 量子放射科 齋藤則生

TEL：029-861-5656 E-mail：norio.saito@aist.go.jp

その他：詳細は <http://www.nmij.jp/saiyo/saiyo.html> 参照

■ ㈱豊田中央研究所 正社員募集

職種：正社員 1名

職務内容：放射光を応用した材料解析

応募資格：職務内容の経験を有する修士以上で35歳以下の方

応募方法：

応募職種・職務内容を明記の上、履歴書（写真添付）、職務歴（研究実績）、論文リスト、主要論文別刷（コピー可）等を下記宛に郵送してください。

（応募書類は返却いたしません。応募の秘密は厳守いたします。）

着任時期：2007年4月1日以降

書類送付先・お問合せ先：

〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-1

㈱豊田中央研究所 人事課 羽田、宮崎

Tel：0561-63-6509 E-mail：saiyo@mosk.tytlabs.co.jp

URL： <http://www.tytlabs.co.jp/>

■ 独立行政法人理化学研究所 播磨研究所 放射光科学総合研究センター

バロン物質ダイナミクス研究室 協力研究員募集

【募集研究室】バロン物質ダイナミクス研究室

【研究室の概要】

強相関系物質、特に高温超電導体のフォノンを観測するための研究プログラムを精力的に推進しております。また、極端条件下での物質や液体ダイナミクスの測定にも取り組んでいます。

【募集職種、募集人数】協力研究員：若干名

【応募資格】

meVの分解能で原子のダイナミクスを検出できる世界最高性能の非弾性X線散乱（IXS）分光器を用いて研究を行う協力研究員を募集いたします。優秀かつ実験研究分野の方であれば、研究分野そのものは問いませんが、非弾性X線散乱、非弾性中性子散乱、ラマン散乱などの同じような分光学的実験手法の経験者の

方は、特に応募を歓迎いたします。非経験の物質計算（第一原理計算）に興味がある方、もしくは経験がある方、そして、新しい実験手法や装置の開発に意欲的な方を望みます。

【勤務地】

事業所名及び住所：理化学研究所 播磨研究所
放射光科学総合研究センター（SPRING-8 内）

〒679-5148 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

【待遇】

年度契約の任期制職員で、評価により更新可能。

給与は、経験、能力、実績に応じた年俸制で、通勤手当、住宅手当、社会保険の適用有り。休日は、土日、祝日、年末年始（12/29-1/3）、当研究所設立記念日。

その他、当研究所規程による。

日本学生支援機構奨学金免除の対象、科学研究費補助金の申請資格有り。

【応募方法及び締切日】

[提出書類] 以下の書類を用意して下さい。

- 研究計画書
- 履歴書
- 研究業績一覧
- 主要論文
- 推薦状2通

[締切日] ポジションが埋まり次第

【個人情報の利用目的について】

この採用に関連して提供された個人情報については、採用選考の目的に限って利用し、選考終了後は、選考を通過した方の情報を除き全ての個人情報は責任をもって破棄します。

【選考方法】 書類審査と面接審査。

【着任時期】 応相談

【問合せ先・書類送付先】

〒679-5148 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

独立行政法人理化学研究所 播磨研究所 放射光科学総合研究センター

パロン物質ダイナミクス研究室 Alfred Baron

TEL : 0791-58-2800 FAX : 0791-58-2898

E-mail : baron@spring8.or.jp

書類の送付につきましては、なるべく E-mail でお願い致します。

■平成19年度後期 高エネルギー加速器研究機構 放射光共同利用実験課題公募

募集対象：

当施設の放射光および低速陽電子を利用する実験。

主に大学等の研究者を対象としますが、一部の企業等の基礎研究も対象となります。

応募期限：2007年5月7日(月)必着

応募要領：申請書は、電子メールでの受付となりました。

電子メールで提出の際、タイトルはPF_proposal（実験責任者）とし電子メールアドレス proposal@mail.kek.jp 宛に送信してください。具体的な申請書作成等に関する詳細については <http://www.kek.jp/intra-j/guide/koubo/pf.html> を参照ください。研究成果は公表して頂きます。予算の範囲内で旅費支給等の便宜供与を行います。

申込、資料請求先：

高エネルギー加速器研究機構 総務部 研究協力課
研究・教育支援室 共同利用係

TEL : 029-864-5126 E-mail : kyodo1@mail.kek.jp

■兵庫県立大学高度産業科学技術研究所

公募人員：教授1名

所属部門：光・量子科学技術大講座

専門分野：

粒子ビームあるいはレーザー、X線などの量子ビームの発生と応用に関する研究の実績があり、放射光光源の性能向上や応用研究を推進し、かつ放射光施設ニュースパルの運用管理などの業務能力を有する者

応募資格：

博士号取得者で、学部・大学院教育、研究指導にも情熱のある方
着任時期：遅くとも2007年10月1日

提出書類：

①履歴書（写真添付）、②研究業績の概要（1000字程度）、③研究業績リスト（論文、特許、著書、解説など）、④主要論文別刷り5編（コピー可）、⑤着任後の研究計画と教育への抱負（各々1000字程度）、⑥照会可能者2名の氏名・連絡先

応募締切：2007年7月8日（消印有効）

書類提出および問合せ先：

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 3-1-2

兵庫県立大学高度産業科学技術研究所

事務長 岸 和重宛「教員応募書類在中」と朱筆（書類否返却）

TEL : 0791-58-0249

■会告

学会年会費の改訂について

ここ数年間にわたって、本放射光学会は会計的に非常に厳しい運営を続けてまいりました。この現状を解決するべく、1年以上にわたって幹事会、評議員会等で議論を続けて参りました。会費収入増加のための会員数拡大のための努力は、数年以上前から継続的に続けられてきており、また、

- 1) 名簿の電子化
- 2) 学会奨励賞副賞の見直し
- 3) 各種会議・行事開催費の削減
- 4) 行事開催にあたっての各種団体への協賛金依頼および会場の提供
- 5) 会誌発行に関する諸費用の削減

など、さまざまな支出削減の努力を行って参りました。しかしながら、

- 1) 正会員数は定常化しているものの、賛助会員、購読会員の減少に伴う収入減
- 2) 会誌広告収入の減少
- 3) 物価上昇に伴う学会誌出版費の増加
- 4) ワークショップや特別委員会等の学会活動の活発化

などの原因により、毎年200万円程度の財政不足となってきました。なお、支出の大きな割合を占める2)の学会出版費に関しては多角的に議論を行い、現在の質・内容を落とさずに出版費を抑えるのが困難であること、更に質を大幅に落したとしても出版費はそれほど変わらないという試算も出ており、削減の努力は続けていくものの全体の赤字を解決する手段にはなり得ないとの結論に達しました。

このような現状の下で学会会計を健全化するためには、学会年会費値上げを提案させていただくしかなく、評議員会での慎重な議論を重ね、昨年12月には学会員の皆様からのパブリックコメントを求めて参りました。1月の総会において、それらの回答を含めた形での御説明をさせていただいた上での議論を経て、年会費を値上げすることが承認されました。

放射光学会の年会費は1988年の創設以来20年間据え置きとなっていました。今回の会費改定により、現在の赤字不足分を補うことができ、かつ、当分の間（10年以上を想定）会費の再改定を行うことなく、経費上正常な運営が可能となると判断しております。

今回の値上げを、新しい時代に向かっての更なる発展のための財源とさせていただきたいと考えておりますので、今後とも御協力をよろしくお願い致します。なお、値上げは一般会員分のみとしそれ以外は据え置くことになっていきます。

平成19年度からの学会会費

一般会員 8,000円（改訂前6,000円）

学生会員 2,000円

賛助会員 50,000円

購読会員 15,000円

（学生会員、賛助会員、購読会員は、据え置きとなります）

■第11回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2006年9月27日開催の学術等選考委員会の選考結果として、3名が推薦された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記のとおり。

その選考結果を受け、第72回評議員会にて第11回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され、第20回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

・岡 俊彦氏 (慶応義塾大学理工学部物理学科)

「時分割 X 線回折法による紫膜の光反応過程の研究」

岡 俊彦氏は、高フラックスビームラインと時分割 X 線回折装置の開発に携わり、特に、単パルスの高フラックス X 線と二次元 X 線検出器を組み合わせたマイクロ秒時間分解能での生体高分子用時分割 X 線回折装置の開発に主導的な役割を果たした。さらに、自ら開発した装置を用いた時分割 X 線回折実験により、生理的環境下での紫膜を試料としたバクテリオロドプシンの光反応過程の構造研究において、10マイクロ秒時間分解能で寿命の短い M1 反応中間体から M2 反応中間体への構造変化の過程を世界で初めて明らかにした。これらの成果は、高輝度放射光を利用した時分割 X 線回折法が生体高分子の反応過程研究において有力な実験手段であることを示したもので、放射光科学および構造生物学研究の両面において独自性の高い優れた業績である。

・野末佳伸氏 (住友化学株式会社 石油化学品研究所 ポリエチレングループ)

「マイクロビーム X 線小角散乱を用いた高分子材料の構造研究」

高分子材料の複雑な階層構造を研究する上で小角 X 線散乱は絶対不可欠な手法のひとつであるが、局所構造の詳細を知るには直径数ミクロンオーダーのマイクロビームが極めて有効である。しかし世界的に眺めても、マイクロビームを用いた小角 X 線散乱実験の報告は殆どされておらず、緊急に解決すべき課題として残されてきた。野末佳伸氏は、ミクロンサイズの X 線ビームを作成、ラメラの複雑な集合組織である高分子球晶に照射、各ラメラの空間配置やラメラ間相関などを定量的に解明することに初めて成功した。また、同氏は結晶化過程における球晶構造発達の様子をマイクロビーム X 線小角散乱の高速時間分解測定に基づいて追跡することにも成功し、これまで謎とされてきた数多くの問題解決に一石を投じた。このように野末氏は、この技術開発を通じて、高分子構造研究分野の更なる発展に重要な契機を与えたものとして高く評価される。

・宮島 司氏 (高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所)

「非線形共鳴近傍における位相空間中のベータートロン振動の研究」

近年第三世代を始めとする放射光光源では、積分輝度の増強や光学素子を熱平衡状態で使用することで測定精度の向上を目指すトップアップ入射の導入が不可欠に成りつつある。しかし、この方式は放射光ビームラインシャッターを開け、かつ挿入光源のギャップを閉めた状態で電子ビームを入射するため、実験ホールでの放射線安全の確保と挿入光源での永久磁石の減磁の抑制の2点から入射時のビーム損失を極力抑えることが重要となる。このビーム損失を引き起こす要因としては、強い6極電磁石による電子ビームの低エミッタンス化や挿入光源の高機能化で持ち込ま

れる非線形誤差磁場とリングを構成する各種電磁石の非線形誤差磁場で、これらが電子ビームの水平・垂直方向の運動を規定する。そのため、これら非線形磁場の強さおよび分布を正確に理解することが重要となる。宮島司氏は、これら非線形磁場で誘起される電子ビームの運動が、非線形共鳴近傍で強調されることに着目し、高速キッカー電磁石と位相空間モニターを用いて、これら共鳴を誘起する微小な非線形項の強さを導出する新しい方法を開発した。この方法は、トップアップ入射時のビーム損失に寄与する非線形共鳴ラインの同定、さらにはその共鳴線の補正方法の確立、そして電子ビームの更なる高精度化(低エミッタンス化、低カップリング化)技術の確立に今後大きく貢献するものと期待される。

■日本放射光学会第73回評議員会議事録

日 時：2007年1月12日(金) 12:30~13:30

場 所：広島国際会議場 G 会場

出席者：雨宮慶幸(会長)、安藤正海、飯田厚夫、太田俊明、大橋治彦、尾嶋正治、籠島 靖、加藤政博、鎌田雅夫、木村真一、小杉信博、佐々木聡、澤 博(会計幹事)、繁政英治(渉外幹事)、下村 理、辛 埴、寿栄松宏仁、大門 寛、高田昌樹、竹田美和、田中 均、並河一道(議長)、間瀬一彦、水木純一郎 各評議員
櫻井吉晴(編集幹事)、百生 敦(庶務幹事)、山本雅貴(行事幹事)

オブザーバー：中川敦史(2006年度会計幹事)

欠席者：朝倉清高、大柳宏之、関 一彦、藤森 淳、柳下 明、若槻壮市

事務局：佐藤亜己奈、西野三和子(WORDS)

議事：

議長選出

議長に並河一道評議員を選出した。

2007年度会長挨拶

雨宮会長より挨拶があり、本年度の活動方針について所信表明があった。

<審議事項>

1. 新入会員の承認

百生庶務幹事より会員異動について、第72回評議員会以降の入退会者に関する報告があり、審議の結果承認された。入会：正会員6名(うち学生会員2名)、賛助会員1社。退会：正会員25名(うち学生会員3名)賛助会員2社。また、会費3年間未納のための強制退会18名に関して承認された。

総会員数は1335名(内 学生会員226名)、賛助会員49社53口となった。

2. 2006年度決算

中川前会計幹事より2006年度の決算報告があり承認された。

3. 2007年度学会組織および事業計画

百生庶務幹事より2007年度の学会組織(会長、幹事、評議員、各委員会委員)、および事業計画について提案があり、承認された。各委員会の委員は下記の通り

[編集委員会] 櫻井吉晴(委員長)、足立伸一、池田 直、石井賢司、宇留賀朋哉、上田和浩、大橋治彦、岸本俊二、

熊坂 崇, 坂中章吾, 沢田正博, 隅谷和嗣, 高橋 浩,
田中 均, 田中義人, 津坂佳幸, 初井宇記, 平野馨一,
松垣直宏, 松田 巖, 守友 浩, 横谷尚睦

[行事委員会] 山本雅貴 (委員長), 五十嵐教之, 岡島敏浩,
木村真一, 木村洋昭, 佐藤仁, 田中 均, 難波秀利,
堀場弘司, 羽島良一, 松田 巖

[渉外委員会] 繁政英治 (委員長), 他, 人選中

4. 2007年渉外活動方針

繁政渉外幹事より2007年度渉外活動方針について提案があり承認された。

他学会との連携を視野に入れた渉外委員を選出中。

5. 2007年行事活動方針

山本行事幹事より2007年度行事活動方針について提案があり承認された。

主な行事予定は以下の通り

- ・第21回日本放射光学会年会・合同シンポジウム (2008年1月/立命館大学びわこ草津キャンパス (予定))
- ・第4回若手ワークショップ
- ・放射光学会設立20周年記念シンポジウム

6. 2007年編集方針

櫻井編集幹事より2007年度編集方針について提案があり承認された。

光学系シリーズ(単行本)の発行計画について説明があった。

7. 2007年予算

澤会計幹事より2007年度予算案 (1~9月の暫定会計年度分)について説明があり, 承認された。

8. 協賛・共催の承認

本学会に対する協賛1件, 共催依頼1件が承認された。

<報告事項>

1. 総会議次第

第20回総会議題を確認した。

2. 会費見直し案について (総会前の会員への周知状況)

雨宮会長より会費見直し案の会員への周知状況について説明があり, 会員から寄せられた意見が報告された。

3. AOFSSR (Asian/Oceania Forum for Synchrotron Radiation Research) の報告

高田前庶務幹事より2006年11月23日, 24日に開催されたアジア・オセアニア放射光フォーラム (AOFSSR) 第一回ワークショップについて報告があった。

4. 先端的リング型光源計画特別委員会答申にともなうパブリックコメント

雨宮委員長より先端的リング型光源計画特別委員会答申にともなうパブリックコメントについて報告があった。先端的リング型光源計画に関して今後議論を行う際に, 参考にすることにした。

5. 評議員会日程予定

第74回評議員会 2007年4月7日(土) 14:00-16:00

理研東京連絡事務所会議室 (東京丸の内)

第75回評議員会 2007年7月14日(土) 14:00-16:00

理研東京連絡事務所会議室 (東京丸の内)

第76回評議員会 2007年11月17日(土) 14:00-16:00

理研東京連絡事務所会議室 (東京丸の内)

■第20回 (2007年) 日本放射光学会総会議事録

日時: 2007年1月12日(金) 15:10~16:10

場所: 広島国際会議場 A 会場

出席者: 出席者: 70名以上 委任状: 92名 計: 162名以上

定款第28条により, 正会員の1/10 (135名) 以上の参加で総会は成立。

(議事)

1. 議長選出

議長に並河一道会員を選出した。

2. 2007年度会長挨拶

雨宮会長より挨拶があり, 本年度の活動方針について所信表明があった。

3. 2006年度事業報告

百生庶務幹事より2006年度の学会活動について報告があった。

4. 先端的リング型光源計画特別委員会報告

先端的リング型光源計画特別委員会の活動および報告書, またそれに対するパブリックコメントについて説明があった。

5. 2006年度決算

中川前会計幹事より2006年度の決算報告があった。

6. 2007年度学会組織

百生庶務幹事より2007年度の学会組織 (会長, 幹事, 評議員, 各委員会) について報告があった。

7. 放射光学会年度変更方針と定款の改定および, 会長・幹事・評議員の任期変更と選挙実施予定の変更について

雨宮会長より, 学会年度変更に伴う定款・細則の改定案および移行措置について説明があり, 審議の結果承認された。移行期間にあたる2007年1月1日から9月30日までの9ヶ月を暫定年度とし, 新しい定款による運用は2007年10月1日からとする。暫定年度の評議員選挙は行わない。会長および評議員の任期は2007年1月1日から2009年9月30日とし, 各種委員会委員の任期もこれに準ずる。

(改定前)	
定款 第3章, 第22条	会長の任期は2年とし, 再任することはできない。幹事の任期は2年とし, 再任を妨げない。評議員の任期は2年とし, 毎年その半数が改選される。ただし, 2年を経ずして再任することはできない。会長, 評議員および幹事の任期は, <u>1月1日</u> に始まる。
(改定後)	
定款 第3章, 第22条	会長の任期は2年とし, 再任することはできない。幹事の任期は2年とし, 再任を妨げない。評議員の任期は2年とし, 毎年その半数が改選される。ただし, 2年を経ずして再任することはできない。会長, 評議員および幹事の任期は, <u>10月1日</u> に始まる。

(改定前)	
定款 第5章, 第31条	本会の会計年度は, 毎年 <u>1月1日</u> に始まり, <u>12月31日</u> を以て終わる。

(改定後)	
定款 第5章, 第31条	本会の会計年度は、毎年 <u>10月1日</u> に始まり、 <u>9月30日</u> を以て終わる。

(改定前)	
細則 第2章, 第5条	定款第17条および第18条に定める会長および評議員の選出は次の方法による。 1. 評議員会は、会長任期2年目の <u>9月15日</u> 以前に、全正会員に正会員の中から次期会長候補者の推薦を求め、その中から上位3位以内に推薦された者を次期会長候補者とする。 2. 評議員会は、次期会長候補者全員の氏名・所属を全正会員に通知して会長任期2年目の <u>10月31日</u> 以前に投票を求める。次期会長は、その投票結果に従い決定される。ただし、票数が同じ場合は、現会長が決定する。 3. 評議員会は、毎年 <u>9月15日</u> 以前に、全正会員に正会員の名から次期評議員候補の推薦を求め、3名以上によって推薦された者を次期評議員候補者とする。 4. 評議員会は、次期評議員候補者全員の氏名・所属を全正会員に通知して毎年 <u>10月31日</u> 以前に投票を求める。その投票結果に従い上位15名が次期評議員に決定される。ただし、票数が同じ場合は、評議員会が決定する。

(改定後)	
細則 第2章, 第5条	定款第17条および第18条に定める会長および評議員の選出は次の方法による。 1. 評議員会は、会長任期2年目の <u>6月15日</u> 以前に、全正会員に正会員の中から次期会長候補者の推薦を求め、その中から上位3位以内に推薦された者を次期会長候補者とする。 2. 評議員会は、次期会長候補者全員の氏名・所属を全正会員に通知して会長任期2年目の <u>7月31日</u> 以前に投票を求める。次期会長は、その投票結果に従い決定される。ただし、票数が同じ場合は、現会長が決定する。 3. 評議員会は、毎年 <u>6月15日</u> 以前に、全正会員に正会員の名から次期評議員候補の推薦を求め、3名以上によって推薦された者を次期評議員候補者とする。 4. 評議員会は、次期評議員候補者全員の氏名・所属を全正会員に通知して毎年 <u>7月31日</u> 以前に投票を求める。その投票結果に従い上位15名が次期評議員に決定される。ただし、票数が同じ場合は、評議員会が決定する。

8. 会費値上げと定款の改定について

両宮会長より、会費見直し案についての説明、会員から寄せられたパブリックコメントおよびそれに対する回答の報告があり、審議の結果、正会員年会費の値上げが承認された。またそれに伴う定款の改定案について説明があり、承認された。会員より、会費値上げに至った経過とその説明を一般会員に分かり易く学会誌に掲載すること、貸借対照表を学会誌

に掲載することが求められ、これらについて学会誌に掲載することとなった。

(改定前)	
定款 第2章, 第9条	正会員は、会費年額6,000円を前納するものとする。学生は年額2,000円を前納するものとする。 ただし、新たに入会しようとする者の当該年度の会費年額を半額とする。 賛助会員は、1口50,000円の会費を1口以上毎年前納するものとする。 購読会員は、会費年額15,000円を前納するものとする。 名誉会員は、会費を納めることを必要としない。
(改定後)	
定款 第2章, 第9条	正会員は、会費年額8,000円を前納するものとする。学生は年額2,000円を前納するものとする。 ただし、新たに入会しようとする者の当該年度の会費年額を半額とする。 賛助会員は、1口50,000円の会費を1口以上毎年前納するものとする。 購読会員は、会費年額15,000円を前納するものとする。 名誉会員は、会費を納めることを必要としない。

9. 2007年度事業計画

百生庶務幹事より2007年度の事業計画について報告があった。

10. 2007年度行事活動方針

山本行事幹事より2007年度の行事活動方針について報告があった。

11. 2007年度編集方針

櫻井編集幹事より2007年度の編集方針について報告があった。光学系シリーズ(単行本)の発行計画について説明があった。

12. 2007年度渉外活動方針

繁政渉外幹事より2007年度の渉外活動方針について報告があった。

13. 2007年度予算案

澤会計幹事より2007年度予算案について報告があった。1～9月の暫定会計年度分であること、2006年度予算案を元に、会費収入を正会員8000円で実績計算したものであることが説明された。

14. 第11回学会奨励賞授与
受賞者

岡 俊彦 (慶応義塾大学理工学部物理学科)

野末佳伸 (住友化学株式会社 石油化学品研究所 ポリエチレングループ)

宮島 司 (高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所)

■会員異動

第73回評議員会（2007年1月12日）で承認

《正会員入会》

向出 大平 キヤノン(株) 先端融合研究所
山田 悠介 高エネルギー加速器研究機構 放射光科学研究施設
松尾 明洋 有明工業高等専門学校
平井 光博 群馬大学大学院工学研究科

以上4名

《学生会員入会》

武市 泰男 東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設

柏原 輝彦 東京理科大学 中井研究室

以上2名

《賛助会員入会》

MB Scientific AB (1口)

以上1社

《退会会員》

正会員33名, 学生会員10名, 賛助会員2社

《会員数》

会員1335名 (内学生226名) 賛助会員49社 (53口)

日本放射光学会2006年度決算書

自 2005年12月21日 至 2006年12月20日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	金 額	細 目	
1. 正会員会費収入	5,908,000		
2. 学生会員会費収入	325,000		
3. 賛助会員会費収入	2,650,000		
4. 購読会員会費収入	600,200		
5. 会誌広告収入	3,278,956		
6. 会誌販売収入	1,554,716	会誌収入 別刷収入	116,227 1,438,489
7. 年会・合同シンポ収入	9,066,500	開催収入 大幸財団補助金	8,866,500 200,000
8. 行事開催収入	392,000	若手 WS-次世代光源計画 JST CREST (若手 WS)	192,000 200,000
9. 受取利息	165		
10. 雑収入	15,000		
収入の部合計	23,790,537		

2. 支出の部

科 目	金 額	細 目	
1. 学会誌出版費	10,381,813	会誌印刷費 別刷印刷費 原稿料 発送手数料・郵送料	8,103,953 607,029 550,000 1,120,831
2. ホームページ維持費	183,750	年間維持・管理費	183,750
3. Web 会員名簿製作費	52,500	年間維持・管理費(基礎費用) メンテナンス費用	52,500 0
4. 学会奨励賞副賞	403,830	特注純銀メダル, アクリルスタンド	403,830
5. 年会・合同シンポ支出	8,349,939	開催費 委員会旅費 事務管理費	7,082,949 612,502 654,488
6. 行事開催費	940,472	Asian/Oceanic Forum 若手 WS-次世代光源計画	500,000 440,472
7. 会議費	1,722,512	会場費 旅費交通費	125,272 1,597,240
8. 通信費	550,876	電話料金・郵送料	550,876
9. 事務所維持費	132,300	事務所賃貸料 水道・光熱費	126,000 6,300
10. 会員業務費	1,616,904	名簿管理費(原簿管理・会費請求) 印刷費 振込手数料・運賃	527,466 383,950 705,488
11. 会計業務費	460,000	税理士顧問料	460,000
12. 一般事務管理費	883,469	会計管理費 事務管理費	252,000 631,469
13. その他事務経費	411,608	事務用品費 消耗品費 給料手当(選挙開票アルバイト) 事務局交通費	65,049 246,159 45,000 55,400
14. 租税公課	200	印紙代	200
支出の部合計	26,090,173		

3. 収支計算の部

当期収支差額	△2,299,636	
前期繰越金	9,924,652	
次期繰越金	7,625,016	

2006年度資産負債明細

2006年12月20日現在

1. 資産の部

(単位 円)

科 目	金 額	細 目	
1. 現金及び預金	9,804,599	手持現金残高	437,115
		郵便振替残高	1,387,054
		UFJ 銀行普通預金残高	2,158,846
		三井住友銀行普通預金残高	5,821,584
2. 会費未収金	2,414,315	正会員会費未収残高	804,000
		学生会員会費未収残高	194,000
		賛助会員会費未収残高	350,000
		購読会員会費未収残高	647,000
		会誌販売未収残高	419,315
3. 広告費未収金	524,764		
4. 立替金	867,615	第20回年会・合同シンポ（旅費など）	867,615
5. 学会誌在庫金	1,375,612	学会誌 1,346冊	1,375,612
6. 電話加入権	70,000		
7. 什器備品（償却済み） 会長用 FAX 償却累計 268,109	14,111		
資産の部合計	15,071,016		

2. 負債の部

科 目	金 額	細 目	
1. 会費前受金	7,446,000	正会員会費	4,977,000
		学生会員会費	169,000
		賛助会員会費	2,300,000
負債の部合計	7,446,000		

3. 剰余金の部

科 目	金 額	細 目	
1. 前年度繰越金	9,924,652		
2. 本年度収支差額	△2,299,636		
剰余金の部合計	7,625,016		

日本放射光学会2007年度予算書

自 2006年12月21日 至 2007年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	金 額	細 目	
1. 正会員会費収入	6,200,000		
2. 学生会員会費収入	243,750		
3. 賛助会員会費収入	1,987,500		
4. 購読会員会費収入	525,000		
5. 会誌広告収入	3,500,000		
6. 会誌販売収入	1,214,000	会誌収入	94,000
		別刷収入	1,120,000
7. 年会・合同シンポ収入	9,294,000	開催収入	9,294,000
収入の部合計	22,964,250		

2. 支出の部

科 目	金 額	細 目	
1. 学会誌出版費	9,458,333	会誌印刷費	6,750,000
		別刷印刷費	600,000
		原稿料	208,333
		発送手数料・郵送料	900,000
		特集記事単行本化	1,000,000
2. ホームページ維持費	189,000	年間維持・管理費	189,000
3. Web 会員名簿製作費	132,000	年間維持・管理費（基礎費用）	94,500
		メンテナンス費用	37,500
4. 学会奨励賞副賞	134,190	特注純銀メダル, アクリルスタンド	134,190
5. 年会・合同シンポ支出	8,138,746	開催費	6,871,756
		委員会旅費	612,502
		事務管理費	654,488
6. 行事開催費	800,000	若手ワークショップ20周年記念行事	800,000
7. 会議費	1,200,000	会場費	75,000
		旅費交通費	1,125,000
8. 通信費	450,000	電話料金・郵送料	450,000
9. 事務所維持費	99,225	事務所賃貸料	94,500
		水道・光熱費	4,725
10. 会員業務費	1,162,500	名簿管理費（原簿管理・会費請求）	450,000
		印刷費	262,500
		振込手数料・運賃	450,000
11. 会計業務費	345,000	税理士顧問料	345,000
12. 一般事務管理費	789,000	会計管理費	189,000
		事務管理費	600,000
13. その他事務経費	495,000	事務用品費	75,000
		消耗品費	300,000
		給料手当（選挙開票アルバイト）	45,000
		事務局交通費	75,000
支出の部合計	23,392,994		
当期収支差額	△482,744		
前期繰越金	7,625,016		
次期繰越金	7,196,272		

日本放射光学会2007年度組織

■会長（任期：2007.1.1-2009.9.30）

雨宮 慶幸（東大）

■幹事（任期：2007.1.1-2009.9.30）

庶務幹事 百生 敦（東大）

行事幹事 山本 雅貴（理研）

編集幹事 櫻井 吉晴（JASRI）

渉外幹事 繁政 英治（分子研）

会計幹事 澤 博（KEK）

■評議員

（任期：2006.1.1-2008.9.30）

雨宮 慶幸（東大）

太田 俊明（立命館大）

大柳 宏之（産総研）

尾嶋 正治（東大）

木村 真一（分子研）

小杉 信博（分子研）

繁政 英治（分子研）

下村 理（KEK）

辛 埴（東大）

寿栄松宏仁（理研）

関 一彦（名大）

田中 均（理研）

藤森 淳（東大）

間瀬 一彦（KEK）

水木純一郎（原子力機構）

（任期：2007.1.1-2009.9.30）

朝倉 清高（北大）

安藤 正海（東理大）

飯田 厚夫（KEK）

大橋 治彦（JASRI）

籠島 靖（兵庫県立大）

加藤 政博（分子研）

鎌田 雅夫（佐賀大）

佐々木 聡（東工大）

澤 博（KEK）

高田 昌樹（JASRI）

竹田 美和（名大）

大門 寛（奈良先端大）

並河 一道（学芸大）

柳下 明（KEK）

若槻 壮市（KEK）

■行事委員（任期：2007.1.1-2009.9.30）

山本 雅貴（理研） 委員長

五十嵐教之（KEK）

岡島 敏浩（佐賀 LS）

木村 真一（分子研）

木村 洋昭（JASRI）

佐藤 仁（広大）

田中 均（理研）

難波 秀利（立命館大）

羽島 良一（原子力機構）

堀場 弘司（東大）

松田 巖（東大）

■渉外委員（任期：2007.1.1-2009.9.30）

繁政 英治（分子研） 委員長

■編集委員

（任期：2006.1.1-2008.9.30）

池田 直（岡山大）

大橋 治彦（JASRI）

坂中 章悟（KEK）

沢田 正博（広大）

高橋 浩（群馬大）

田中 均（理研）

平野 馨一（KEK）

守友 浩（筑波大）

横谷 尚睦（岡山大）

（任期：2007.1.1-2009.9.30）

櫻井 吉晴（JASRI） 委員長

足立 伸一（KEK）

石井 賢司（原子力機構）

上田 和浩（日立）

宇留賀朋哉（JASRI）

岸本 俊二（KEK）

熊坂 崇（東工大）

隅谷 和嗣（佐賀 LS）

田中 義人（理研）

津坂 佳幸（兵庫県立大）

初井 宇記（分子研）

松垣 直宏（KEK）

松田 巖（東大）

■2007年度の主な事業計画

• 第20回総会

2007年1月12日（於：広島国際会議場）

• 第20回年会・放射光科学合同シンポジウム

2007年1月12日-14日（於：広島国際会議場）

• 第11回学会奨励賞授与

2007年1月12日（於：第20回総会）

• 市民公開講座「ためして放射光—20世紀を支える夢の光」

2007年1月13日（於：広島国際会議場）

• 日本放射光学会設立20周年記念事業

• 第4回次世代光源計画ワークショップ

• 評議員会（1月、4月、7月）

2007年度第1回（通算第73回）評議員会

2007年1月12日（於：広島国際会議場）

• 幹事会（1月、3月、4月、6月、7月）

2007年度第1回幹事会

2007年1月11日（於：広島マツダビル第一会議室）

- 行事委員会（年1回開催）
2007年度第1回行事委員会
2007年1月13日（於：広島国際会議場）
- 編集委員会（年3回開催）
2007年度第1回（通算79回）編集委員会
2007年2月22日
（於：理化学研究所 東京連絡事務所 小会議室）
- 第12回学会奨励賞受賞候補者選定会議
- 学会誌の定期発行（年6回）

- Vol. 20, No. 1/2007年1月末発行
- Vol. 20, No. 2/2007年3月末発行
- Vol. 20, No. 3/2007年5月末発行
- Vol. 20, No. 4/2007年7月末発行
- Vol. 20, No. 5/2007年9月末発行
- Vol. 20, No. 6/2007年11月末発行
- 第21回年会・放射光科学合同シンポジウム
2008年1月（立命館大学びわこ草津キャンパスを予定）

一口メモ

ぼけ

中国原産のぼけ（木瓜）はバラ科の落葉灌木で1-2 mの高さとなる。幹は滑らかで小枝が刺状となり、葉には毛がない。花は3月から4月にかけて葉より先に咲き、淡紅、紅、白と紅の斑、白など変化に富むので、観賞用に庭、公園などに植えられる。楕円形の実は夏に黄色に熟す。花は晩春、実は晩秋の季語として用いられる。

今年の元旦以降の気候は異常に暖かく、先月中旬から我が家の庭にウグイスがやってきて、早朝から“ホーホケキョ”と鳴いていたり、近くの研究所の中からはきじの鳴き声も聞かれます。また、スイスの友人からの便りでは冬休みのスキー旅行は雪不足で取りやめたそうです。このように、世界中で暖冬でしたが、4月の上旬に関東地方で行われる小学校から大学の入学式の時に、葉桜になっていないことを望んでいます。

(No. 74, K. Ohshima)



■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2007年 4/19-20	第48回科学技術映像祭入選作品発表会	科学技術館・サイエンスホール	日本科学技術振興財団・振興事業部 TEL : 03-3212-8487	20・2
5/7-11	第6回非弾性 X 線散乱国際会議 (IXS2007)	淡路夢舞台国際会議場	財団法人高輝度光科学研究センター 独立行政法人日本原子力研究開発機構 独立行政法人理化学研究所 高エネルギー加速器研究機構 E-mail: ix2007@spring8.or.jp	19・5
5/22-25	第43回真空技術基礎講習会	大阪府立産業技術総合研究所	日本真空協会関西支部・(株)大阪府技術協会・日本真空工業会関西支部 E-mail: yamanaka@tri.pref.osaka.jp	20・2
5/28	日本表面科学会関西支部15周年記念特別講演会「関西が拓く新しい表面材料・分析科学」	神戸大学 百年記念館	日本表面科学会関西支部 E-mail: daimon@ms.naist.jp	20・2
7/22- 7/24	埋もれた界面の X 線・中性子解析に関するワークショップ2007	東北大学金属材料研究所	主催：(財)応用物理学会「埋もれた」界面の X 線・中性子解析グループ E-mail: sakurai@yuhgiri.nims.go.jp	20・2
7/25-27	第10回 XAFS 討論会	研究成果活用プラザ北海道	日本 XAFS 研究会	20・2
8/22- 8/25	第47回真空夏季大学	伊豆網代温泉 松風苑	日本真空協会 E-mail: ofc-vsji@vacuum-jp.org	20・2
9/10-13	第2回回折構造生物国際シンポジウム2007	タワーホール船堀	日本学術振興会産学協力研究委員会 回折構造生物第169委員会 E-mail: isdsb07@nubio.nagoya-u.ac.jp	19・5
9/25-29	加速器をベースとした赤外顕微鏡と分光の国際ワークショップ (WIRMS2007)	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場	WIRMS2007事務局 (神戸大学内) E-mail: okamura@kobe-u.ac.jp	19・3
10/29- 11/2	第16回二次イオン質量分析国際会議	石川県金沢市県立石川音楽堂	SIMS XVI 国際会議組織委員会	19・6
10/29- 11/2	第6回新材料・素子の原子レベルキャラクタリゼーションに関する国際シンポジウム	石川県金沢市県立石川音楽堂	日本学術振興会マイクロビームアナリシス第141委員会	19・6
11/5-11/8	第20回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議	京都国際会議場	社団法人 応用物理学会 E-mail : secretariat@imnc.jp	20・2
11/14- 11/16	第48回真空に関する連合講演会	学習院百周年記念会館	日本真空協会 E-mail: ofc-vsji@vacuum-jp.org	20・2

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

■第48回科学技術映像祭入選作品発表会

貴重な日本の最新科学技術映像を紹介。製作会社、企業、テレビ局、研究機関（個人研究者も含む）等の出品作品から、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞受賞15作品を一挙公開。

日時：2007年4月19日(木)～20日(金)（入場無料）

会場：科学技術館・サイエンスホール
（千代田区北の丸公園2-1）

交通：地下鉄竹橋駅・九段下駅徒歩7分

問合せ先：

日本科学技術振興財団・振興事業部

TEL：03-3212-8487

URL：<http://ppd.jsf.or.jp/filmfest>

■第43回真空技術基礎講習会

実習を主にした・初級者のための真空技術基礎講習会

主催：日本真空協会関西支部・(財)大阪府技術協会・日本真空工業会関西支部

協賛：日本放射光学会，他

後援：大阪府立産業技術総合研究所

日時：2007年5月22日(火)～25日(金) 9：30-17：50

会場：大阪府立産業技術総合研究所

参加費：主催団体会員52,000円，協賛団体会員55,000円，一般60,000

定員：60名

締切日：2007年5月14日(月)

連絡先：

大阪府立産業技術総合研究所内 (財)大阪府技術協会
担当：山中

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2-7-1

TEL：0725-53-2329 FAX：0725-53-2332

E-mail：yamanaka@tri.pref.osaka.jp

■日本表面科学会関西支部15周年記念特別講演会 「関西が拓く新しい表面材料・分析科学」

主催：日本表面科学会関西支部

協賛：日本放射光学会，他

日時：2007年5月28日(月) 13：30-17：10

会場：神戸大学 百年記念館

参加費：無料

申込先（問合せ先）：

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5

奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科
凝縮系物性学講座 大門 寛

Tel：0743-72-6020 Fax：0743-72-6029

E-mail：daimon@ms.naist.jp

申込締切：2007年5月22日(火)

申込方法：

<http://www.sssj.org/Kansai/kouen070528.html> での ONLINE
申し込みを推奨

電子メール，FAX，または官製ハガキによる場合は以下を記して下さい。

(1) 氏名（ふりがな）

(2) 連絡先（勤務先または自宅住所（〒付記），Tel，Fax，電子メール）

(3) 参加区分（日本表面科学会会員，その他の別）

注）お申し込みの際にご記載頂きました連絡先は，表面科学会が主催する他のセミナー・講演会などのご案内にも使用させて頂く場合がございます。ご案内が不要な方はお手数ですがその旨お申し出下さい。

■埋もれた界面の X 線・中性子解析に関するワークショップ2007

応用物理学会「埋もれた」界面の X 線・中性子解析グループは，PF 懇談会 X 線反射率ユーザーグループの主要メンバーを母体とし，よりひろかれた活動をめざして，(財)応用物理学会の新領域グループとして2005年11月に設立されました。X 線・中性子反射率法に関連する研究会は，2001年12月以来ほぼ毎年開催されており，今回の企画で9回目になります。関心をお持ちの皆様に参加をお待ちしております。尚，本ワークショップのプロシーディングスは英文論文集として刊行を予定しております。

主催：(財)応用物理学会「埋もれた」界面の X 線・中性子解析グループ

<http://www.nims.go.jp/xray/ref/>

協賛：日本放射光学会，他

日時：2007年7月22日(日)～24日(火)

場所：東北大学金属材料研究所

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

<http://www.imr.tohoku.ac.jp/>

参加費：無料

宿泊：ホテルパールシティ仙台 (<http://www.hmi-hotel.co.jp/miyagi/sendai/>) に一括して予約をいれています。宿泊を希望される方は5月31日までに下記連絡先へご一報下さい

連絡先：物質・材料研究機構 桜井健次

TEL：029-859-2821 FAX：029-859-2801

E-mail：sakurai@yuhgiri.nims.go.jp

■第10回 XAFS 討論会

日本 XAFS 研究会では，毎年1回，XAFS 討論会を開催し，X 線吸収微細構造 (XAFS) および関連現象に関する理論，解析方法，実験技術，基礎及び応用研究と情報交換の機会としています。本年度につきましては北海道大学触媒化学研究センターのご協力をいただき，下記の要領で札幌にて開催の予定です。是非ともご参加のほどお願いいたします。

主催：日本 XAFS 研究会

共催：北海道大学触媒化学研究センター

協賛：日本放射光学会，他

日時：2007年7月25日(水)～27日(金)

会場：研究成果活用プラザ北海道

〒060-0819 北海道札幌市北区北19条西11丁目
参加費：日本 XAFS 研究会会員 4,000円（年会費を含む）
一般 4,000円，学生 2,000円

講演申込締切：2007年5月7日（月）
予稿原稿締切：2007年7月2日（月）
事前参加申込締切：2007年7月20日（金）

問合せ先：

朝倉清高

〒001-0021 北海道札幌市北区北21条西10丁目

北海道大学触媒化学研究センター

TEL/FAX：011-706-9113

E-mail：xafs10@cat.hokudai.ac.jp

詳細：URL：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16691/

XAFS10_Webdatas/index.html

■第47回真空夏季大学

主催：日本真空協会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2007年8月22日（水）～26日（土）

会場：伊豆網代温泉 松風苑

〒413-0102 静岡県熱海市下多賀660

申込締切：2007年7月20日（金）

問合せ先：

日本真空協会事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8

機会振興会館306号室

TEL：03-3431-4395 FAX：03-3433-5371

E-mail：ofc-vs@vacuum-jp.org

URL：http://www.soc.nii.ac.jp/vs/

■第20回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議

主催：社団法人 応用物理学会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2007年11月5日（月）～11月8日（木）

会場：京都国際会議場

連絡先：

第20回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議事務局

有限会社セクレタリーアート気付

〒115-0055 東京都北区赤羽西1-5-1-710

TEL：03-3900-6744 FAX：03-3900-6741

E-mail：secretariat@imnc.jp

URL：http://imnc.jp/

■第48回真空に関する連合講演会

主催：日本真空協会

協賛：日本放射光学会，他

日時：2007年11月14日（水）～16日（金）

会場：学習院 百周年記念会館

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

定員：350名

講演申込締切：2007年7月27日（金）

電子投稿締切：2007年9月21日（金）

問合せ先：

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8

機会振興会館306号室日本真空協会事務局

TEL：03-3431-4395 FAX：03-3433-5371

E-mail：ofc-vs@vacuum-jp.org

URL：http://www.soc.nii.ac.jp/vs/

● 会誌オンラインご案内 ●

編集委員長 櫻井吉晴

オンライン会誌は <http://www.jsrr.jp/journal/> でご覧いただけます。

今回のユーザー ID とパスワードは

User ID：jsr202

Password：Ry5jhg2m

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

まだ試運転段階ですので、皆様から、バグの指摘、コメントなどをいただければ幸いです。ご連絡は櫻井 (sakurai@spring8.or.jp) までお願いします。また、当然のことですが、会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。